

FOCUS

「現場力」向上にむけた取組み

1

働き方改革元年 長時間労働問題への取組み

当社では2017年を「働き方改革元年」と定めて、具体的な取組みに着手しています。その中で、喫緊の課題である長時間労働問題の解決にむけ、2016年度より以下の取組みを実

施しました。一連の活動を検証した結果、3つの課題が見えてきました。

今後は見えてきた課題に対し、継続的なモニタリングの実施やICT機器の利用促進など具体的な取組みを進め、一歩ずつ着実な改善を目指します。

2016年度取組み

1. 「基本姿勢」の発信
2. 残業時間計画・実績表の運用
3. モニタリングの実施

見えてきた課題

- 業務内容の多さ
- 業務内容の偏り
- 会社方針の浸透不足

2017年度取組み

1. 経営者による現場往査の実施
2. モニタリングの実施
3. ICT機器の利用促進
 - タブレットの全社員配布
 - 時短に有効なアプリの活用
 - ICT普及委員による教育支援活動
4. 改善にむけた施策の情報発信

2

無事故無災害にむけた取組み

人命尊重の基本理念に基づく「思いやり運動」を基調とし、法令遵守と関係するすべての人々に配慮した安全衛生施策（COHMS）の実施により、事業所で働くすべての人々が一致協力して、安全かつ健全で快適な職場環境を実現することを目指しています。

主な取組み

1. ヒューマンエラーの徹底排除による労働災害の大幅な減少
2. 職長を軸とした安全施工能力の向上と安全衛生教育の強化
3. 全社統一安全衛生システムの確立

取組みの成果

無事故無災害記録

労働災害発生日数率：0.67%（前年度1.10%）

労働災害発生件数：16件（前年度25件）

墜落・転落災害の割合：25.0%（前年度32.0%）

休業4日以上での算出

厚生労働大臣表彰において優良賞を受賞 ～常翔梅田出張所～

2017年度の厚生労働大臣表彰において、学校法人常翔学園梅田キャンパス（仮称）新築工事が優良賞を受賞しました。この賞は、安全衛生に関する水準が特に優秀で他の模範であると認められる事業場または企業に対して授与されるもので、受賞したのは全国で9事業場でした。

延労働人数：154,422名
延労働時間：1,389,798時間

常翔梅田出張所 所長
中筋 知行





3

第3回CSR表彰のご紹介

- 「おおのじょう ども食堂 みずほ町」の開設
- グリーンサイト・iPadの活用による労働時間の削減
- 「中山まつり」における継続的な地域貢献活動

「子どもたちの笑顔のために」

孤独な時間を過ごす地域の子どもたちに居場所と温かい食事を提供する「子ども食堂」の運営を行っています。

福岡県大野城市にある社員寮の食堂と談話室を開放し、2016年8月から月1回開催、毎回50名を超える子どもたちが集まります。単に場所を提供するだけでなく、社員自らが運営スタッフの一員として会場設営や運営に取組んでいるほか、趣旨に賛同した民間企業や農家から提供された食材も活用しています。初めての活動のため、手探り状態で開始しましたが、参

加者の要望を踏まえ、回を重ねるごとに充実した活動となっています。また、地域の皆様がボランティアで多数参加されており、本活動をきっかけに良好な関係を築くことができます。

「子ども食堂」の活動は全国各地で広がりつつありますが、民間企業の施設が無償提供されることが少ないうえ、食品業界ではなく建設業界という異業種が参加していることが珍しく、活動の様子がマスメディアで紹介されるなど、企業の新たな社会貢献活動の例として注目され、高い評価を得ています。子どもたちの喜ぶ姿や次回開催日を心待ちにしている声を聞くと、開設して本当に良かったと感じています。今後も、この活動を続けていきます。



子ども食堂



福岡事務管理室 室長
多田 哲

4

技術研究所での取組み

山岳トンネルの高速施工を目指した技術開発

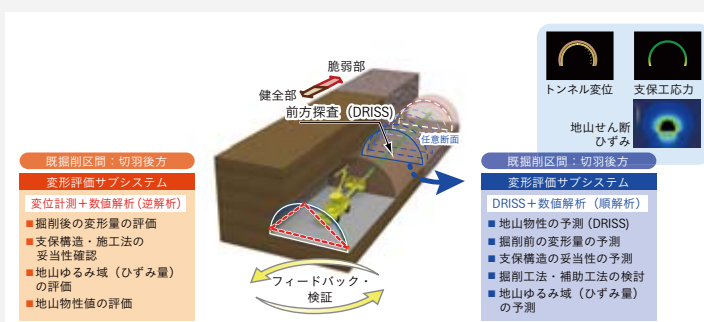
山岳トンネルの高速施工を目指す技術として、発破時の飛石を受け止めることが可能な「移動式発破防護バルーン」を開発しました。本装置を用いてトンネル内の設備の損傷を防ぐことで、設備をトンネルの先端へ近づけることが可能となり、掘削した岩石の搬出時間を短縮できます。今後、現場への適用を通して、継続的な装置の改良を進めていきます。

山岳トンネルの安全性を目的とした現場支援

地下深部を掘削することが多い山岳トンネルでは、掘削時のトンネル変形のリスクを常に抱えており、変形量予測の正確さや迅速な対応が非常に重要です。現場職員が有する施工データの共有や現場状況の聞き込みが大切になります。そして、削岩機の穿孔データを用いた切羽前方探査技術(DRIS)や変位計測データ、数値解析技術を統合させて一元管理するトンネル変形予測システム「PAS-Def」を用いて、簡便かつ迅速に変形量予測を行っています。



移動式発破防護バルーン使用状況



PAS-Def 概念図



技術研究所
三井 善孝
(工学博士)